

トリアセテートのプリーツは熱可塑性を利用して加工しています。今回は、プリーツ加工がタンブル乾燥やスチーム仕上げで消失した事例を紹介いたします。



監修／クリーニング総合研究所

衣類の状態

スカートの上下に異なる形状で加工されたプリーツの、下側部分が消失している。

熱に弱いことに配慮して処理を行う。

プリーツ製品の取扱い方法

トリアセテートやポリエステル製のプリーツは、繊維が持つ熱可塑性（常温では変形しにくい）が、加熱で軟化して成形しやすくなり、冷やすと再び固くなる性質）を利用して加工するもので、様々な形状のプリーツを作ることができ、その保持性にも優れている。

原因

タンブル乾燥の熱やスチームトンネルでのスチーム処理によりプリーツが消失したものの。

事故の防止対策

トリアセテートのプリーツは、

しかし、加工後に加えられる熱には弱いことから、取扱いは次のような注意を要する。

- ・ハンガーに吊るすなどしてプリーツが自然な状態になるように取り扱う。しつけ縫いなどをしてプリーツが開かないようにする
- ・ウエットまたはドライクリーニングでソフトに取り扱う。脱水、脱液は軽く振りきる程度とする
- ・乾燥はシワを伸ばしてプリーツを整え、ハンガーなどに吊して陰干しで自然乾燥するか、40℃以下のタンブル乾燥を行う
- ・プリーツの形を整えてバキュームなどで固定し、浮かしアイロンで軽くスチーム仕上げをする
- ・スチームボックス、スチームトンネルは不可。スチームによる仕上げは、短時間であっても温度が高く熱量も大きいこ

とからタンブル乾燥以上にプリーツに与える影響が大きい

タンブル乾燥とプリーツの伸びについて

3 kg/cm²の蒸気圧（約120℃）で30分間蒸熱処理し、プリーツを固定したポリエステル生地をタンブル乾燥する実験では、70℃で20分間の条件でプリーツの保持性が低下し始める結果が報告されている。

また、同じタンブラー乾燥機のタンブル内の温度と内胴の表面温度を測定した結果では、タンブル内の温度が60～62℃の時、内胴表面温度は72～85℃になることが確認されている。高温になるタンブル内胴との接触にも考慮した温度の管理と取扱いが必要となる。



スカート下部に加工されていたプリーツが消失している



スカートの上下で異なる形状のプリーツ加工が施されていた

- 品名…プリーツスカート
- 素材…トリアセテート100%
- 取扱い絵表示…    
- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、タンブル乾燥、スチームトンネル仕上げ